

スゲ属植物の比較識別

岡 本 香*

The comparative discrimination of *Carex* species

Kaori OKAMOTO*

1974年9月30日受付

まえがき

スゲ属植物（以下「スゲ類」という。）は、海辺から山頂まで到る所に生育し、広い生育環境を持っている。またスゲ類は群落生態学上、植生の構成種として注目される植物でもある。一般にスゲ類の各種間の識別点として、根茎・基部の鞘・茎(稈)・葉・小穂・穎・果のうなどの状態で識別されている。種数は世界に約 2000 種、日本でも 200 種以上もあり、種間の類似性が著しいので、スゲ類の識別にはしばしば困難な場合が多い。筆者はスゲ類の野外観察と豊富な採集標本などで、各種間の分類学的特徴や生態などを比較検討した。この稿はスゲ類の同定で誤りやすく、類似性の強い種を選び、その相違点をできるだけ簡明にして、スゲ類の比較識別を試みた。

各種間の比較識別

アゼスゲ節 Sect. *Acutae* Fries

〔I〕 アゼスゲ類

このスゲ類は *Carex forficula* Fr. et Sav. (タニガワスゲ), *C. heterolepis* Bunge (ヤマアゼスゲ), *C. thunbergii* Steud. (アゼスゲ), *C. thunbergii* Steud. var. *appendiculata* Ohwi (オオアゼスゲ) の 3 種 1 変種について、

〔識別点〕

(1) 根茎 (a) 匍枝がある：アゼスゲ・ヤマアゼスゲ (b) 匍枝がない：オオアゼスゲ・タニガワスゲ (2) 基部の鞘 (a) 糸網がある：タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (b) 糸網がない：アゼスゲ・オオアゼスゲ (3) 頂小穂 (a) 1 個が雄性：タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (b) 1—2 個が雄性：アゼスゲ・オオアゼスゲ (4) 穎 (a) 両穎に芒がない：アゼスゲ・オオアゼスゲ (b) 雌花穎に芒がある：タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (5) 果のう (a) 長嘴：タニガワスゲ (b) 短嘴：アゼスゲ・オオアゼスゲ・ヤマアゼスゲ (c) 口部 2 歯：タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (d) 口部全縁：アゼスゲ・オオアゼスゲ (e) 脈がある：アゼスゲ・オオアゼスゲ (f) 脈がない：タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (6) 生育環境 (a) 湿原生：オオアゼスゲ (b) 湿原

* 岡山理科大学生物学教室 Department of Biology, Okayama College of Science, Ridai, Okayama, Japan.

一溪畔生：アゼスゲ (c) 溪畔生：タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (7) 分布 (a) 北海道・本州・四国・九州：アゼスゲ・タニガワスゲ・ヤマアゼスゲ (b) 北海道・本州：オオアゼスゲ (8) その他 (a) オオアゼスゲの根茎は、まれに匍枝をつける場合がある。(b) タニガワスゲの果のうは、口部縁辺に細毛の突起があって粗澁となっている。

〔II〕 ゴウソ類

このスゲ類は *C. maximowiczii* Miq. (ゴウソ), *C. phacota* Spreng. (ホナガヒメゴウソ), *C. phacota* Spreng. var. *gracilispica* Kükenth. (ヒメゴウソ) の2種1変種について。

〔識別点〕

(1) 根茎 (a) 匍枝がある：ゴウソ・ホナガヒメゴウソ (b) 匍枝がない：ヒメゴウソ (2) 小穂 (a) 小穂の長いものが多い：ホナガヒメゴウソ (b) 小穂の短いものが多い：ゴウソ・ヒメゴウソ (3) 穎 (雌花穎：有芒) (a) 雄花穎に短芒がある：ゴウソ (b) 雄花穎に長芒がある：ホナガヒメゴウソ (c) 雄花穎に芒がない：ヒメゴウソ (4) 果のう (a) 口部全縁：ゴウソ (b) 口部凹形：ヒメゴウソ・ホナガヒメゴウソ (5) 生育環境 (a) 溪畔生：ホナガヒメゴウソ (b) 湿原—沼沢生：ゴウソ (c) 草原生：ヒメゴウソ (6) 分布 (a) 北海道・本州・四国・九州・琉球：ゴウソ (b) 北海道・本州・四国・九州：ヒメゴウソ・ホナガヒメゴウソ。

〔III〕 テキリスゲ類

このスゲ類は *C. flabellata* Lév. et Van. (ヤマテキリスゲ), *C. kiotensis* Fr. et Sav. (テキリスゲ), *C. otaruensis* Fr. (オタルスゲ) の3種について。

〔識別点〕

(1) 茎の状態 (a) 平滑：ヤマテキリスゲ (b) ざらつく：オタルスゲ・テキリスゲ (2) 葉面の状態 (a) 平滑：ヤマテキリスゲ (b) ざらつく：オタルスゲ・テキリスゲ (3) 雄花穎 (a) 有芒：テキリスゲ・ヤマテキリスゲ (b) 無芒：オタルスゲ (4) 果のう (a) 有脈で口部凹形：ヤマテキリスゲ (b) 無脈で口部凹形：オタルスゲ (c) 無脈で口部2歯：テキリスゲ (5) 生育環境 (a) 溪畔生：ヤマテキリスゲ (b) 沼沢—溪畔生：オタルスゲ (c) 溪畔—路傍生：テキリスゲ (6) 分布 (a) 北海道・本州：ヤマテキリスゲ (b) 北海道・本州・四国・九州：オタルスゲ・テキリスゲ (7) その他 (a) ヤマテキリスゲは葉に光沢があり、乾燥後は葉縁が外転する。(b) 一般に頂小穂は雄性であるが、テキリスゲは先端に雌花をつける場合があり、茎の中間に1葉がある。

オニナルコスゲ節 Sect. *Physocarpae* Drejer

この節では *C. rhynchophysa* C. A. Meyer (オオカサスゲ), *C. vesicaria* L. (オニナルコスゲ) の2種について。

〔識別点〕

(1) 茎の状態 (a) 平滑：オオカサスゲ (b) ざらつく：オニナルコスゲ (2) 葉巾 (a) 3—

8 mm : オニナルコスゲ (b) 8—15 mm : オオカサスゲ (3) 基部の鞘 (b) 一般に褐色である : オオカサスゲ (b) 一般に赤紫の褐色で、糸網がある : オニナルコスゲ (4) 小穂 (a) 上方の小穂 2—3 個が雄性 : オニナルコスゲ (b) 上方の小穂 3—5 個が雄性 : オオカサスゲ (5) 果のう (a) 広卵形でやや短嘴・5—6 mm : オオカサスゲ (b) 卵状円錐形で長嘴・6—8 mm : オニナルコスゲ (6) 生育環境 (a) 湿原生 : オニナルコスゲ (b) 沼沢生 : オオカサスゲ (7) 分布 (a) 北海道・本州 (北・中部地方) : オオカサスゲ (b) 北海道・本州・九州 : オニナルコスゲ

カサスゲ節 Sect. **Confertiflorae** Franch.

カサスゲ類

このスゲ類は *C. dispalata* Boott (カサスゲ), *C. dispalata* Boott var. *takeuchii* Ohwi (キンキカサスゲ), *C. nemostachys* Steud. (アキカサスゲ) の 2 種 1 変種について、

〔識別点〕

(1) 花期 (a) 4—7 月 : カサスゲ・キンキカサスゲ (b) 7—9 月 : アキカサスゲ (2) 葉巾 (a) 4—5 mm : アキカサスゲ (b) 4—8 mm : カサスゲ・キンキカサスゲ (3) 穎 (a) 両穎が長芒である : アキカサスゲ (b) 雄花穎が無芒で、雌花穎に芒がある : カサスゲ・キンキカサスゲ (4) 果のう (a) 無毛で平滑 : カサスゲ・キンキカサスゲ (b) 有毛で粗澁 : アキカサスゲ (c) 外向する嘴 : カサスゲ・アキカサスゲ (d) 内向する嘴 : キンキカサスゲ (e) 長嘴 : アキカサスゲ・キンキカサスゲ (f) 短嘴 : カサスゲ (g) 口部 2 歯 : アキカサスゲ (h) 口部斜截 : カサスゲ・キンキカサスゲ (i) 柱頭が宿存する : キンキカサスゲ (5) 分布 (a) 北海道・本州・四国・九州 : カサスゲ (b) 本州 (越前以西・近畿・中国地方) : キンキカサスゲ (c) 本州 (近畿以西)・四国・九州・琉球 : アキカサスゲ (6) その他 (a) カサスゲ類の生育環境は、一般に河畔や池畔などで、特に溪畔生に多い。(b) カサスゲの側小穂で、その先端部に雄花をつける場合がある。(c) アキカサスゲの頂小穂で、その先端部に雌花をつける場合がある。

タガネソウ節 Sect. **Siderostictae** Franch.

この節のスゲ類は *C. ciliato-marginata* Nakai (ケタガネソウ), *C. pachygyna* Fr. et Sav. (ササノハスゲ), *C. siderosticta* Hance (タガネソウ), *C. siderosticta* Hance var. *glabrata* Ohwi (ケナシタガネソウ) の 3 種 1 変種について、

〔識別点〕

(1) 根茎 (a) 匍枝がある : ケタガネソウ・ケナシタガネソウ・タガネソウ (b) 匍枝がない : ササノハスゲ (c) 根茎の節間が短い : ケタガネソウ・ササノハスゲ (d) 根茎の節間が長い : ケナシタガネソウ・タガネソウ (e) 根茎が球状に肥厚する : ササノハスゲ (f) 根茎の肥厚が不顕著 : ケタガネソウ・ケナシタガネソウ・タガネソウ (2) 基部の鞘 (a) 赤紫色の斑点がある : ケタガネソウ・ケナシタガネソウ・タガネソウ (b) 赤紫色の斑点がない : ササノハスゲ (3) 小穂 (a) 頂小穂が卵形・雄性で、側小穂は雄雌性となり頂部に雄花がある : ケタガネソウ (b) 小穂が球形・雄雌性で、頂部の雄花部が不顕著 : ササノハスゲ (c) 小穂が短円柱形・雄雌性である : ケナ

シタガネソウ・タガネソウ (d)小穂が1苞より1—2個である：ケタガネソウ・ケナシタガネソウ・タガネソウ (e)小穂が1苞より2—3個である：ササノハスゲ (4) 穎 (a)芒や縁辺細毛がある：ケタガネソウ (b)芒や縁辺細毛がない：ササノハスゲ・ケナシタガネソウ・タガネソウ (c)両穎の背部に褐色の斑点がある：ケタガネソウ・ケナシタガネソウ・タガネソウ (d)両穎背の部に褐色の斑点がない：ササノハスゲ (5) 果のう (a)有毛：ケタガネソウ (b)無毛：ケナシタガネソウ・ササノハスゲ・タガネソウ (c)褐色の斑点がある：ケナシタガネソウ・タガネソウ (d)紫色の斑点がある：ケタガネソウ (e)斑点がない：ササノハスゲ (6) 生育環境 (a) 草原—林縁生：ケナシタガネソウ・タガネソウ (b) 林縁生：ケタガネソウ・ササノハスゲ (7) 分布 (a) 本州・四国・九州：ケタガネソウ (b) 本州(近畿以西)・四国：ササノハスゲ (c) 北海道・本州・四国・九州：タガネソウ (d) 本州：ケナシタガネソウ (8) その他 (a) ケタガネソウは葉・葉鞘・基部の鞘・果のうなどに短毛が著しい。

ナキリスゲ節 Sect. *Graciles* Tuckerm.

この節のスゲ類は *C. autumnalis* Ohwi (オオナキリスゲ), *C. brunnea* Thunb. (コゴメスゲ), *C. nachiana* Ohwi (キシウナキリスゲ), *C. nakiri* Ohwi (ナキリスゲ), *C. sacrosancta* Honda (ヒメナキリスゲ), *C. scabriculumis* Ohwi (フサナキリスゲ), *C. sendaica* Fr. (センダイスゲ) の7種について。

〔識別点〕

(1) 根茎 (a)匍枝がある：センダイスゲ (b)匍枝がない：オオナキリスゲ・キシウナキリスゲ・コゴメスゲ・ナキリスゲ・ヒメナキリスゲ・フサナキリスゲ (2) 茎の状態 (a)ざらつく：センダイスゲ・ナキリスゲ・フサナキリスゲ (b)ほとんど平滑：キシウナキリスゲ・コゴメスゲ・ヒメナキリスゲ (c)平滑：オオナキリスゲ (d)茎の中間に1—2個の葉をつける：キシウナキリスゲ (e)茎の中間に葉をつけない：オオナキリスゲ・コゴメスゲ・ナキリスゲ・ヒメナキリスゲ・フサナキリスゲ・センダイスゲ (3) 小穂 (a)頂小穂が雄性である：オオナキリスゲ (b)頂小穂が雄性でない(雄雌性)：コゴメナキリスゲ・キシウナキリスゲ・ナキリスゲ・ヒメナキリスゲ・フサナキリスゲ・センダイスゲ (4) 果のう (a)果のうの全面に毛があり長嘴：ヒメナキリスゲ・フサナキリスゲ (b)果のうの全面に毛があり短嘴：ナキリスゲ (c)短嘴で果のうの上部と口部縁辺に毛がある：コゴメスゲ・センダイスゲ (d)果のうの上部や口部縁辺に、僅かに毛があり、表面がほとんど平滑で長嘴：キシウナキリスゲ (e)果のうの上部や口部縁辺に、僅かに毛があり、表面がほとんど平滑で短嘴：オオナキリスゲ (f)柱頭が宿存する：フサナキリスゲ (5) 生育環境 (a)溪畔生：フサナキリスゲ (b)岩礫生：オオナキリスゲ (c)林縁生：キシウナキリスゲ・コゴメスゲ・センダイスゲ・ナキリスゲ (d)林床生：ヒメナキリスゲ (6) 分布 (a)本州(中国地方特に石灰岩地帯)・四国：オオナキリスゲ (b)本州(関東南部以西)・四国・九州：コゴメスゲ (c)本州(紀伊地方)・九州：キシウナキリスゲ (d)本州(仙台以西)・四国・九州：センダイスゲ・ナキリスゲ (e)本州(伊勢・

大和地方など)・四国・九州：ヒメナキリスゲ (f)本州(近畿以西)・四国・九州：フサナキリスゲ

ヌカスゲ節 Sect. **Praecoces** Christ

〔I〕 アオスゲ類

このスゲ類は *C. discoidea* Boott (ヒメアオスゲ), *C. fibrillosa* Fr. et Sav. (ハマアオスゲ), *C. leucochlora* Bunge (アオスゲ), *C. leucochlora* Bunge var. *lonchophora* Akiyama (オオアオスゲ) の3種1変種について.

〔識別点〕

(1) 根茎 (a) 匍枝がある：ハマアオスゲ・ヒメアオスゲ (b) 匍枝がない：アオスゲ・オオアオスゲ (2) 茎の状態 (a) ざらつく：アオスゲ・オオアオスゲ (b) 平滑：ハマアオスゲ・ヒメアオスゲ (3) 小穂 (a) 頂小穂が側小穂より同じ高さかまたは超出：アオスゲ・ハマアオスゲ (b) 頂小穂が側小穂より超出：オオアオスゲ (c) 頂小穂が側小穂に沈生：ヒメアオスゲ (4) 穎 (a) 上部縁辺に突起がある：ハマアオスゲ・ヒメアオスゲ (b) 上部縁辺に突起がない：アオスゲ・オオアオスゲ (5) 果のう (a) 口部2歯：アオスゲ・オオアオスゲ (b) 口部凹形：ハマアオスゲ・ヒメアオスゲ (6) 生育環境 (a) 海濱生：ハマアオスゲ (b) 岩礫生：ヒメアオスゲ (c) 路傍生：アオスゲ・オオアオスゲ (7) 分布 (a) 本州(中国地方)・九州・琉球：ヒメアオスゲ (b) 本州(東北地方以西)・四国・九州・琉球：ハマアオスゲ (c) 北海道・本州・四国・九州・琉球：アオスゲ (d) 本州(関東地方・周防)・九州：オオアオスゲ (8) その他 (a) ヒメアオスゲは小穂の梗がほとんど無梗である。(b) アオスゲとオオアオスゲでは、最下の苞葉がアオスゲは短鞘で、オオアオスゲは長鞘である。(c) ハマアオスゲが内陸型に移行したものがヒメアオスゲと思われる。

〔II〕 カンスゲ類

このスゲ類は *C. conica* Boott (ヒメカンスゲ), *C. foliosissima* Fr. Schm. (オクノカンスゲ), *C. morrowii* Boott (カンスゲ), *C. multifolia* Ohwi (ミヤマカンスゲ), *C. temnolepis* Fr. (ホソバカンスゲ) の5種について.

〔識別点〕

(1) 根茎 (a) 匍枝がある：ヒメカンスゲ・オクノカンスゲ (b) 匍枝がない：カンスゲ・ホソバカンスゲ・ミヤマカンスゲ (2) 茎の状態 (a) ざらつく：ホソバカンスゲ (b) 平滑：オクノカンスゲ・カンスゲ・ヒメカンスゲ・ミヤマカンスゲ (3) 基部の鞘 (a) 光沢がある：ミヤマカンスゲ (b) 光沢がない：オクノカンスゲ・カンスゲ・ヒメカンスゲ・ホソバカンスゲ (4) 葉巾 (a) 2—4mm：ヒメカンスゲ (b) 2—5mm：ホソバカンスゲ (c) 5—8mm：オクノカンスゲ (d) 5—10mm：ミヤマカンスゲ (e) 5—14mm：カンスゲ (5) 穎 (a) 縁辺に突起がある：カンスゲ・ヒメカンスゲ・ホソバカンスゲ (b) 縁辺に突起がない：オクノカンスゲ・ミヤマカンスゲ (6) 果のう (a) 有毛：ヒメカンスゲ・ミヤマカンスゲ (b) 無毛：オクノカンスゲ・カンスゲ・

ホソバカンスゲ (c)口部2歯：オクノカンスゲ・カンスゲ・ホソバカンスゲ・ミヤマカンスゲ
 (d)口部全縁：ヒメカンスゲ (7) 生育環境 (a) 溪畔生：カンスゲ (b) 路傍一林縁生：ヒメカ
 ンスゲ (c) 林縁一林床生：ミヤマカンスゲ (d) 林床生：オクノカンスゲ・ホソバカンスゲ
 (8) 分布 (a) 北海道・本州・四国・九州：オクノカンスゲ・ヒメカンスゲ・ミヤマカンスゲ
 (b)本州・四国・九州：カンスゲ (c)本州〔羽後・越後・佐渡一北陸・丹波・近畿・中国地方（三
 徳山・扇ノ山・隠岐島後）〕：ホソバカンスゲ (9) その他 (a)カンスゲは葉面に光沢があり、
 3脈顕著で、葉の横断面がM字型である。(b)ホソバカンスゲはオクノカンスゲの小形のもの
 とよく似ているが、茎がざらつき、葉がかたく、根茎に匍枝がなく、基部の鞘が著しく繊維状に
 細裂する。(c)コカンスゲ節 (Sect. *Decorae* Kükenth.) のコカンスゲ (*C. reinii* Fr. et Sav.) は
 根茎に匍枝があり、側小穂が雄雌性で、基部が雌花である。また両穎に芒がなく、果のうは有毛・
 多脈で、口部2歯となっている。分布は本州・四国・九州で、主に常緑の広葉や針葉樹林の林床
 に生育する。

〔III〕 ホンモンジスゲ類

このスゲ類は *C. cuneata* Ohwi (ミチノクホンモンジスゲ), *C. pisiformis* Boott (ホンモンジ
 スゲ), *C. stenostachys* Fr. et Sav. (ニシノホンモンジスゲ), *C. stenostachys* Fr. et Sav. var.
ikegamiana T. Koyama (コシノホンモンジスゲ) の3種1変種について。

〔識別点〕

(1) 根茎 (a)匍枝がある：ホンモンジスゲ・ミチノクホンモンジスゲ (b)匍枝がない：コシノ
 ホンモンジスゲ・ニシノホンモンジスゲ (2) 茎の状態 (a)ざらつく：コシノホンモンジス
 ゲ・ニシノホンモンジスゲ・ミチノクホンモンジスゲ (b)平滑：ホンモンジスゲ (3) 基部
 の鞘色 (a)黄褐色：ホンモンジスゲ (b)暗褐色：コシノホンモンジスゲ・ニシノホンモンジス
 ゲ・ミチノクホンモンジスゲ (4) 穎 (a)有芒で縁辺が白膜質：コシノホンモンジスゲ・ニシ
 ノホンモンジスゲ・ホンモンジスゲ (b)無芒で縁辺が白膜質でない：ミチノクホンモンジスゲ
 (5) 生育環境 (a)路傍生：ニシノホンモンジスゲ (b)林縁生：コシノホンモンジスゲ・ミチノク
 ホンモンジスゲ (c)林床生：ホンモンジスゲ (6) 分布 (a)本州（東北・関東北部）：ミチ
 ノクホンモンジスゲ (b)本州（関東以西）：ホンモンジスゲ (c)本州（特に北陸地方）：コシ
 ノホンモンジスゲ (d)本州（中部以西・近畿・中国地方）：ニシノホンモンジスゲ (7) その
 他 コシノホンモンジスゲはニシノホンモンジスゲとミチノクホンモンジスゲとの中間型ともい
 われ、特に本州の多雪地域に生育する。

〔IV〕 モエギスゲ類

このスゲ類は *C. pocilliformis* Boott (ヒメモエギスゲ) と *C. tristachya* Thunb. (モエギスゲ)
 の2種について。

〔識別点〕

(1) 茎の状態 (a)ざらつく：モエギスゲ (b)平滑：ヒメモエギスゲ (2) 小穂 (a)小穂が茎

頂に散在し、最下の小穂は長梗である：ヒメモエギスゲ (b)小穂が茎頂に集合し、最下の小穂以外はほとんど無梗である：モエギスゲ (3) 穎 (a)雄花穎で縁辺が合着し、短筒形である：ヒメモエギスゲ (b)雄花穎の縁辺が合着しない：モエギスゲ (4) 生育環境 両者ともに林縁—林床生である。 (5) 分布 (a)本州(駿河以西)・四国・九州・琉球：ヒメモエギスゲ (b)本州(関東以西)・四国・九州：モエギスゲ

ハリスゲ節 Sect. *Capitellatae* Mein.

この節のスゲ類は *C. biwensis* Fr. (マツバスゲ), *C. capillacea* Boott (ハリガネスゲ), *C. fulva* Fr. (ニッコウハリスゲ), *C. hakonensis* Fr. et Sav. (コハリスゲ), *C. onoei* Fr. et Sav. (ヒカゲハリスゲ), *C. uda* Maxim. (エゾハリスゲ) の6種について。

〔識別点〕

(1) 茎の状態 (a)ざらつく：エゾハリスゲ・コハリスゲ・ニッコウハリスゲ・ヒカゲハリスゲ (b)平滑：ハリガネスゲ・マツバスゲ (2) 小穂 (a)雄花部が顕著である：ハリガネスゲ・マツバスゲ (b)雄花部が不顕著である：エゾハリスゲ・コハリスゲ・ニッコウハリスゲ・ヒカゲハリスゲ (3) 穎 (a) 最下穎が有芒である：ニッコウハリスゲ (b) 最下穎が無芒または微凸である：エゾハリスゲ・コハリスゲ・ハリガネスゲ・マツバスゲ・ヒカゲハリスゲ (c)両穎の縁辺に突起がある：ハリガネスゲ・マツバスゲ (d)両穎の縁辺に突起がない：エゾハリスゲ・ニッコウハリスゲ・ヒカゲハリスゲ (e) 両穎の先端まで脈がある：エゾハリスゲ・ニッコウハリスゲ (f)両穎の先端まで脈がない：ハリガネスゲ・ヒカゲハリスゲ・マツバスゲ (4) 果のう (a)有脈：エゾハリスゲ・ニッコウハリスゲ・ハリガネスゲ・ヒカゲハリスゲ・マツバスゲ (b)無脈：コハリスゲ (c) 紫斑点がある：ニッコウハリスゲ・マツバスゲ (d) 紫斑点がない：エゾハリスゲ・コハリスゲ・ヒカゲハリスゲ・ハリガネスゲ (e) 口部2歯：ヒカゲハリスゲ (f) 口部凹形：エゾハリスゲ・コハリスゲ・ハリガネスゲ (g) 口部全縁：ニッコウハリスゲ・マツバスゲ (5) 生育環境 (a) 路傍生：マツバスゲ・コハリスゲ (b) 林縁生：ニッコウハリスゲ・ハリガネスゲ (c) 林床生：エゾハリスゲ・ヒカゲハリスゲ (6) 分布 (a) 北海道・本州・四国・九州：コハリスゲ・ハリガネスゲ (b) 北海道・本州(中部地方特に長野県)：エゾハリスゲ (c) 北海道・本州(関東・中部地方)：ヒカゲハリスゲ (d) 本州(東北・北関東・中部・東海・中国地方)：ニッコウハリスゲ (e) 本州・四国・九州：マツバスゲ。

ヒカゲスゲ節 Sect. *Digitatae* Fries

この節のスゲ類は *C. humilis* Leyss. var. *nana* Ohwi (ホソバヒカゲスゲ) と *C. lanceolata* Boott (ヒカゲスゲ) の1種1変種について。

〔識別点〕

(1) 茎の高さ (a) 3—6 cm：ホソバヒカゲスゲ (b) 10—40 cm：ヒカゲスゲ (2) 茎の状態 (a)ざらつく：ヒカゲスゲ (b)平滑：ホソバヒカゲスゲ (3) 葉巾 (a) 0.5—1.5mm：ホソバヒカゲスゲ (b) 1.5—2 mm：ヒカゲスゲ (4) 小穂 (a) 2—4個：ホソバヒカゲスゲ (b) 3—6

個：ヒカゲスゲ (5) 生育環境 (a)岩礫—林縁生：ホソバヒカゲスゲ (b)草原—林縁生：ヒカゲスゲ (6) 分布 両者ともに北海道・本州・四国・九州。

ミコシガヤ節 Sect. **Multiflorae** Kunth

この節のスゲ類は *C. albata* Boott (ミノボロスゲ), *C. nubigena* Don var. *franchetiana* Ohwi (ツクシミノボロスゲ), *C. pazii* Kükenth. (キビノミノボロスゲ) の2種1変種について。

〔識別点〕

(1) 茎の状態 (a)ざらつく：ミノボロスゲ (b)平滑：キビノミノボロスゲ・ツクシミノボロスゲ (2) 小穂 (a)小穂の長いものが多い：キビノミノボロスゲ (b)小穂の短いものが多い：ツクシミノボロスゲ・ミノボロスゲ (3) 穎 (a)両穎とも無芒：ミノボロスゲ (b)両穎とも無芒：キビノミノボロスゲ (c)雌花穎のみ有芒：ツクシミノボロスゲ (4) 果のう (a)果のうの上部にこぶ状の赤褐色または緑色の突起がある：キビノミノボロスゲ (b)果のうの上部に突起がない：ミノボロスゲ・ツクシミノボロスゲ (5) 生育環境 (a)湿原—路傍生：ミノボロスゲ (b)路傍—草原生：キビノミノボロスゲ・ツクシミノボロスゲ (6) 分布 (a)北海道・本州(東北・関東・中部地方)：ミノボロスゲ (b)本州(中国地方)・九州：ツクシミノボロスゲ (c)本州(岡山県の県南部瀬戸内海地域)：キビノミノボロスゲ。

考察および結言

筆者は類似性の強いスゲ類を、簡単に識別できるように8節44種8変種を選んで、その分類学的特徴などを比較検討した。同種であっても環境条件のちがいがから、形態的に著しい地理的な変異が認められ、またアオスゲ類やカンスゲ類などには、中間型と思われる種もあった。この事については後日別稿で報告したい。生育環境(例えば溪畔生・林床生など)は、スゲ類の野外調査をもとに、出現度の多い場所をそのスゲの生育環境としたので、ある地域では例外の環境に生育する場合もあると思う。類似性の強いスゲ類の識別には、従来の識別点のほかに各種の生態を調査すれば、識別が容易になることでしょう。今後スゲ類の識別に、その生態などを含めて比較検討し、種間の識別を簡素化に努力したい。

参 考 文 献

- 秋山茂雄(1955)極東産スゲ属植物。札幌, 北大。
 吉川純幹(1957・1958・1960)日本産スゲ属植物図譜1—3。金沢, 北陸の植物の会。
 岡本香(1960)三段峽々谷の森林とスゲ属植物について。ヒコビア 2: 156。
 _____(1961)雲月山のスゲ類について。ヒコビア 2: 205。
 _____(1961)三瓶山のスゲ類について。ヒコビア 2: 208。
 _____(1961)尾瀬地方のスゲ属植物について。広島大学生物学会誌 28: 38—44。
 _____(1961)三段峽(広島県)のスゲ属植物に関する2・3の観察。広島大学生物学会誌 28: 45—51。
 _____(1961)大山地方のスゲ類について。ヒコビア 2: 207。

- _____ (1961) 白木山のスゲ類について. ヒコビア 2: 257.
- _____ (1961) 東郷山のスゲ類について. ヒコビア 2: 276.
- _____ (1962) 長門峡のスゲ類について. ヒコビア 3: 18.
- _____ (1962) 秋吉台周辺のスゲ類について. ヒコビア 3: 76.
- _____ (1962) 広島県帝釈峡のスゲ属植物. 比和科学博物館研究報告 5: 30—32.
- _____ (1962) タガネソウ節の識別について. ヒコビア 3: 85.
- _____ (1962) 宮島のスゲ類について. ヒコビア 3: 152.
- _____ (1963) ヌカスゲ節の識別について(1). ヒコビア 3: 176.
- _____ (1963) 野呂山のスゲ類について. ヒコビア 3: 190.
- _____ (1963) 帝釈峡のスゲ類について. ヒコビア 3: 244.
- _____ (1963) ヌカスゲ節の識別について. (2). ヒコビア 3: 327.
- _____ (1964) ナキリスゲ節の識別について. ヒコビア 4: 144.
- 大井次三郎 (1965) 日本植物誌. 東京, 至文堂.
- 岡本 香 (1965) アゼスゲ節の識別について(1). ヒコビア 4: 236.
- _____ (1965) 南原峡のスゲ類について. ヒコビア 4: 256.
- _____ (1965) Taxonomic study of the Carices in the western Honshu of Japan. 岡山理科大学紀要 1: 1—105.
- 北村四郎・他 (1965) 原色日本植物図鑑 下. 大阪, 保育社.
- 牧野富太郎 (1966) 牧野新日本植物図鑑. 東京, 北隆館.
- 岡本 香 (1967) 隠岐のスゲ属植物. 岡山理科大学紀要 3: 27—33.
- _____ (1970) 岡山県産スゲ属植物. 岡山理科大学紀要 6: 133—154.
- _____ (1970) 四国産スゲ属植物. 岡山理科大学紀要 6: 155—170.
- _____ (1971) 島根県産スゲ属植物. 岡山理科大学紀要 7: 93—119.
- _____ (1972) 鳥取県産スゲ属植物. 岡山理科大学紀要 8: 11—33.
- _____ (1973) 淡路島のスゲ属植物. 岡山理科大学紀要 9: 39—44.
- _____ (1974) スゲとその用途. 島根大文理学部生物学教室同窓会報 6: 9.

Summary

At present the number of *Carex* species is estimated at about 2000 in the world and about 200 in Japan. The specific distinction of this group is very difficult because of close mutual resemblance in morphological characters and also because among the group are included many variable species and hybrids. This study was carried out to distinguish *Carex* species by comparison of taxonomic characters. As a result, this manuscript was treated 44 species and 8 varieties of *Carex* species.